

警察の現場責任者 5 人が代表に選ばれ、10 月 21 日にスペイン・オビエドで開かれた授賞式に出席、福島県警本部からは渡辺正巳警視が表彰を受けた。



陸上自衛隊岩熊真司一佐、加藤憲司二佐、
警視庁大井川典次警視、福島県警渡辺正巳警視、
東京消防庁富岡豊彦消防司令。

Q：事故現場で活躍している人達の被曝の心配はないのですか？ 作業環境における放射線量の許容限界を教えてください。

A：原子力発電所での作業における国際的な放射線被曝限界は 5 年間平均で年 20 ミリシ - ベルトであり、1 年間で 50 ミリシ - ベルトを超えてはならない。しかしアメリカ環境保護庁は緊急時に対処する要因は「高い財産を保護するため」100 ミリシ - ベルト、「多くの人々の生命を助け保護するため」250 ミリシ - ベルトまで引き上げを許容する。

我国では、事故に直面した際の最大許容量を 1 年で 100 ミリシ - ベルトとしていたが、2011 年 3 月 15 日、厚生労働省は福島第一原発事故の状況を鑑みて、これを 250 ミリシ - ベルトまで引き上げた。これが現在の基準です。

しかし、この放射線量は突如高くなることがあり、常時測定をし続け、許容範囲を超える警報が鳴ったら即座に避難する設備を設けなければならない。

2011 年 3 月 15 日朝、1 時間当たり 1000 ミリシ - ベルトが検出した瞬間には、作業員達は一時退避しなければならなかった。これが最大値でその後は起きていない。

放射線量は長時間浴びていると健康に影響があるが、瞬間的なモノは影響がない。

250 ミリシ - ベルトの放射線を 1 日中浴びていた場合、状況によっては即座に兆候が現われる場合がある。

その兆候は、吐き気、食欲不振の症状から。骨髄、リンパ節及脾臓へのダメージがある。

一般的には、1 ~ 3 シ - ベルトのレベルではより大きな影響をガ現われ、回復が難しくなる可能性がある。3 シ - ベルトを超えると影響は深刻となり、皮膚の剥離や出血、生殖障害などが現われ、即刻、治療が施さなければ最悪の場合 死に至る場合がある。

5 シ - ベルト以上であれば、治療しても確実に死に至る。